

COOP HIMMELB(L)AU FUTURE REVISITED

コープ・ヒンメルブラウ 回帰する未来

2009年9月19日[土] - 12月23日[水・祝]

NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]ギャラリーA

開館時間: 午前10時 - 午後6時 [入館は閉館の30分前まで] | 休館日: 月曜日 [月曜が祝日の場合翌日]

入場料: 一般・大学生500円 [400円] / 高校生以下無料・[]内は15名様以上の団体料金

主催: NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]

特別協力: オーストリア大使館 文化フォーラム / オーストリア教育・芸術・文化省

協力: 財団法人トステム建材産業振興財団 /

オーストリア航空



プレス内覧会

日時:
2009年9月18日[金]
午後5時 - 8時

場所:
ICCギャラリーA

COOP HIMMELB(L)AU
WOLF D. PRIX / W. DREIBHOLZ & PARTNER ZT GMBH

NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]

〒163-1404 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー4階 | 交通: 京王新線初台駅東口から徒歩2分

お問い合わせ: ☎ 0120-144199 | E-mail: query@ntticc.or.jp | URL: <http://www.ntticc.or.jp/>

お問い合わせ

NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]

広報担当: 高橋良彰 [たかはしよしあき] | 企画担当: 四方幸子 [しかたゆきこ]

TEL: 03-5353-0800 / FAX: 03-5353-0900 | E-mail: query@ntticc.or.jp

URL: <http://www.ntticc.or.jp/>

NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]では、オーストリアを拠点に国際的に活躍する建築家集団 コープ・ヒimmelブラウ[COOP HIMMELB(L)AU]の日本初の大規模な個展「コープ・ヒimmelブラウ: 帰還する未来」を開催いたします。

1968年にウィーンで設立されたコープ・ヒimmelブラウは、60年代という科学技術が発達し、既存の価値がごとごとく問い直された時代において、重厚壮大な建築を逸脱していくユートピア的なヴィジョンを機知に満ちた浮遊感覚によって表明し、一躍時代の寵児となりました。以後40年以上にわたって彼らは、建築を身体、空間、環境、都市へと接続され拡張していくメデイウムと見なしながら、実際の建築そして建築的実験という二つの側面で進化を遂げてきたといえます。

21世紀に入り、素材や構造計算などをはじめとする建築技術の進歩は、コープ・ヒimmelブラウのヴィジョンを実際の建築において実現することを可能にしました。彼らが当初から抱いていた構想に、技術がようやく追いつき、世界各地で大規模な建築プロジェクトが実現しています。流れる大気を可視化したかのような建築、重力を超えて浮遊するかのようなダイナミックフォルム、光によって建築の内外が交錯するかのような空間……。実現された建築は、機能的でありながら同時に先進的なオブジェでもあり、また訪れる人々の知覚や意識を触発するオープンな場を開いています。情報ネットワークが発達し、都市や自然環境との共生が志向される現在、コープ・ヒimmelブラウは、人と建築の新たな関係可能性を発信しているのです。

本展では、コープ・ヒimmelブラウの「建築的実験」の側面に焦点をあて、アートと科学技術を横断する最新のプロジェクトを2つ紹介いたします。1つめは、1969年に実験的に実施され、2008年によりよく実現された《アストロハルーン 1969 リヴィジテッド—フィードバックスペース》。体験者の心拍にリアルタイムで反応する壮大なインタラクティブ・インスタレーションです。そして《ブレイン・シティ・ラボ》。脳のニューロン・ネットワークと都市の生成発展における類似性を扱うリサーチの最新成果をインスタレーションとして展開します。いずれも2008年の第11回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展で発表され話題を集めたもので、初の巡回先となるICCでは最新バージョンでの展示となります。これらのプロジェクトを介して、「人々によって作られる〈建築〉」という、68年から一貫してヒimmelブラウが追求しつづけている「未来」へのヴィジョンと、それが現在において新たな形で「帰還」している、まさに最先端の現場に立ち会っていただくことができるでしょう。

“COOP HIMMELB(L)AU”は、「空色共同組合」の意味(“HIMMELBLAU”は独語で「空色」。“Cooperative”は英語で「共同組合」)。“HIMMEL”は「天の」、「BAU」は「建築」を独語で表すため、「(L)」を略すと「天の建築共同組合」というもう一つの意味が浮かぶ。

[ICCと建築]

ICCは1997年の開館以来、建築家や建築のプロジェクト^[1]に加え、独自の切り口として「アート&テクノロジー」の実験的探求やその歴史的検証を行なう展覧会^[2]を開催してきました。またここ数年は、新たな動向であるインタラクティブ建築のプロジェクトを数多く紹介してきました。^[3]「コープ・ヒimmelブラウ: 帰還する未来」展は、これらの要素を総合的に含むICCならではの企画といえます。

- 1: 開館記念展として開催された磯崎新「海市」(1997)、他に「荒川修作/マドリノ・ギンズ」展(1998)、「ダニエル・リベスキンド」展(2002)など。
- 2: 「E.A.T.」展(2003)、「アート&テクノロジーの過去と未来」展(2005)。
- 3: 「オープン・ネイチャー」展(2005)、「コネクティング・ワールド」展(2006)、「ライト・[イン]サイト」展(2008)、2007-08年の「オープン・スペース」展、「オープン・スペース 2009」内テーマ展示「ミッション G: 地球を知覚せよ!」など。



1 © COOP HIMMELB(L)AU



2 © Hagen Erbschner



3 © Gerald Zugmann



4 © Gerald Zugmann



5 © COOP HIMMELB(L)AU



6 © Hélène Brinet



7 © Markus Pihhofer



8 © Markus Pihhofer

コープ・ヒimmelブラウ | COOP HIMMELB(L)AU



ヴォルフ・D・プリクス
Wolf D. PRIX
© Elise Semotan

1968年にヴォルフ・D・プリクス、ヘルムート・シュヴィツィンスキー、マイケル・ホルツァーによってウィーンで設立された建築設計事務所。建築、都市計画、デザイン、そしてアートの分野で活動。ウィーン本社に加え、ロサンゼルスに第二オフィス、ドイツ・フランクフルト、パリ、米国・アクロン、メキシコ・シティ、香港にプロジェクト・オフィスを持つ。2006年以降プリクス、ヴォルフ・ディーター・ドライブホルツ、ハラルド・クリーガー、カロリン・シュミット・バウアおよびプロジェクト・パートナーにより運営。コープ・ヒimmelブラウの中心人物としてデザイン主幹およびCEOを務めるプリクスは、1942年ウィーン生まれ。ウィーン工科大学、ロンドンのAAスクール、ロサンゼルス南カリフォルニア建築大学(SCI-Arc)で建築を学ぶ。93年ウィーン応用芸術大学建築学科の教授に就任、2003年より同大学建築学院院長、スタジオプリクスの主宰者、同大学副学長を兼任。90年代までの代表的プロジェクトに、ファルケ街屋上改造(ウィーン/1983/87-88)、ムラン=セナール市のためのマスター・プラン(フランス/1986-87)、フローニンゲン美術館東館(オランダ/1993-94)、エキスポ02—フォーラム・アルトブラージュのためのデザイン(スイス・ベルン/1999-2002)、UFA シネマ・センター(ドイツ・ドレスデン/1993-98)、美術館(ドイツ・ミュンヘン/1992/2002-05)など。

2000年以降の代表的な建築としてアクロン美術館(米国・アクロン/2001-07)、BMWヴェルト(ドイツ・ミュンヘン/2001-07)、大連国際会議センター(中国/2008-10)、釜山シネマセンター(韓国/2005-11)、ミューゼ・コンフリュアンス[時と知の博物館](フランス・リヨン/2001-13)、欧州中央銀行新本部(ドイツ・フランクフルト/2003-14)など。

最近の展覧会に「COOP HIMMELB(L)AU. Beyond the Blue」(オーストリア応用博物館、ウィーン/2007、ウェクスナー・センター・フォー・ジャーツ、米国/2009)、第11回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展(イタリア/2008)などがある。米国建築賞(2005)、国際建築賞(2007)、RIBA 国際賞およびRIBAヨーロッパ賞(2008)他、受賞多数。

また計画中のプロジェクトに現代美術&企画展美術館(中国・深圳)、クラウド・ルーフ展示センターの拡張と新規開発(イタリア・リヴァ・デル・ガルダ/2006-12)、ザラウツ文化センター(スペイン/2007-12)がある。2009年、ストロンゴリ美術館(イタリア・カラブリア州)のコミッションを獲得。

<http://www.coop-himmelblau.at/>

- 1: 《ザ・クラウト》 | 1968
- 2: 《ザ・ホワイト・スーツ》 | 1969
- 3: ファルケ街屋上改造 | ウィーン/1983/87-88
- 4: UFA シネマ・センター | ドイツ・ドレスデン/1993-98
- 5: ミューゼ・コンフリュアンス[時と知の博物館] | フランス・リヨン/2001-13
- 6: BMWヴェルト | ドイツ・ミュンヘン/2001-07
- 7: 大連国際会議センター | 中国/2008-10
- 8: 欧州中央銀行新本部 | ドイツ・フランクフルト/2003-14



展示内容

1
《アストロバルーン 1969 リヴィジテッド
—フィードバックスペース— | 2008-

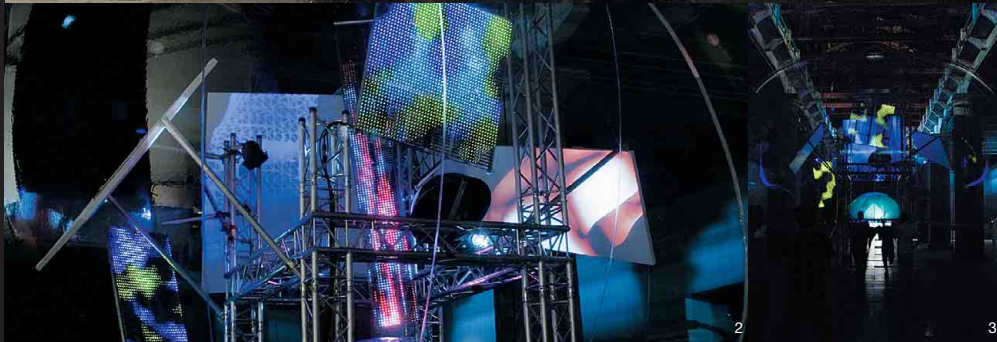
1969年の《ハートスペース—アストロバルーン》は、心拍データをリアルタイムで抽出することで、生体と環境とのバイオ・フィードバック作用を起こすインスタレーションとして構想された。2008年、ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展で、構想後39年を経て初めて実現されたこの壮大なインスタレーションは、2人の体験者の心拍データを計測し、それらがバルーン内のLEDパネルやスクリーン上で可視化されることで、バルーン全体が息づくかのようなものである。本展に際し、ICCの空間サイズに合わせて再制作される。



7 8

われわれの建築は、物理的な平面図をもたない。精神的なものである。もはや壁は存在しない。われわれの空間は脈打つバルーンであり、心臓の鼓動が空間になる。そして顔がファサードなのだ

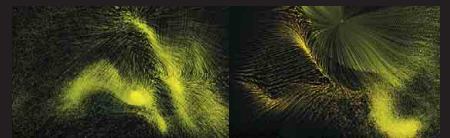
—コープ・ヒンメルブラウ[1968]



2 3

2
《ブレイン・シティ・ラボ》 | 2008-

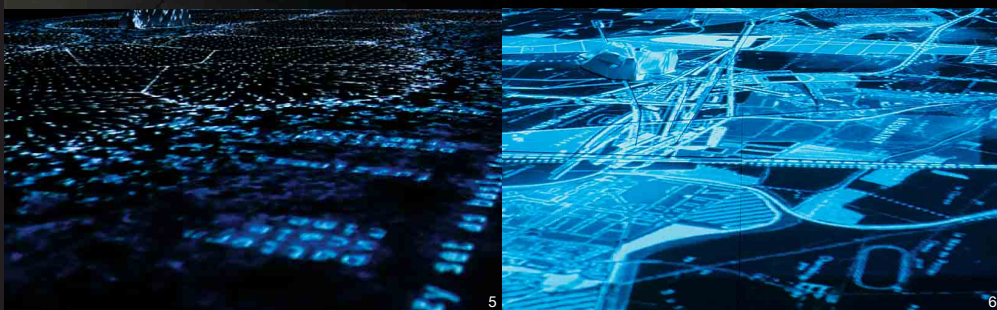
人間の脳の発達プロセスと都市の生成発展プロセスを関連づけたインタラクティブ・インスタレーション。ドイツの神経生理学者ヴォルフ・シンガーによる研究を参照しつつ、コープ・ヒンメルブラウが神経生理学者、社会学者、プログラマーらと共同で進めるリサーチの現時点でのアウトプットとなる。生命および情報科学の最前線を都市へと適用することで、最終的には都市や社会のこれまでにない発展のシナリオをプログラム・ベースで提示することが構想されている。



9 10



4



5 6

- 1-3: 《アストロバルーン 1969 リヴィジテッド —フィードバックスペース—》 | 2008- ©Bengt Stiller
- 4-6: 《ブレイン・シティ・ラボ》 | 2008- 4,5: ©Bengt Stiller | 6: ©Gerald Zugmann
- 7,8: 《ハートスペース—アストロバルーン—》 | 1969 7: ©Erwin Reichmann | 8: ©Lisl Ponger
- 9,10: 《ブレイン・シティ・ラボ》スクリーンショット | 2008- ©COOP HIMMELB(L)AU

関連イベント

- [シンポジウム]
日時：2009年9月19日[土] 午後2時より | 会場：ICC 4階 特設会場
出演：ヴォルフ・D・ブリックス[コープ・ヒンメルブラウ]、
八束はじめ[建築家・建築評論/芝浦工業大学教授]、
鈴木了二[建築家/早稲田大学芸術学校校長]
定員：200名[当日先着順] | 日英同時通訳付
入場無料[展示をご覧になる場合は、別途入場料が必要です]
●出演者、内容は変更になる場合があります。詳細はホームページでご確認ください。
- [ギャラリーツアー]
日時：2009年10月17日[土]、11月21日[土]、12月19日[土] 午後2時-3時
定員：各回20名[事前予約不要・当日午後2時にICC5階ギャラリーA前集合]
担当学芸員が、展示会の内容や各作品について解説します。
●展示会チケットが必要です。

その他の展示

- 「オープン・スペース 2009」
展示期間：2009年5月16日[土]-2010年2月28日[日]
開館時間：午前10時-午後6時
休館日：月曜日[月曜が祝日の場合は翌日]、年末年始[12/28-1/4]、保守点検日[2/14]
入場無料[企画展をご覧になる場合は、別途入場料が必要です]
- 「エマーゼンシース! 012」
和田永《コンポジション・イン・モーション》
展示期間：2009年8月29日[土]-11月15日[日]
●「エマーゼンシース!」は、
これから期待されるアーティストやクリエイターの最新の作品や
プロジェクトをいち早く展示するコーナーです。

東京オペラシティアートギャラリーとの相互割引

NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]受付で
同時期に開催中の東京オペラシティアートギャラリー企画展の入場券をご呈示いただくと、
本展に団体料金でご入場いただけます。
また東京オペラシティアートギャラリー企画展にご入場の際に、
本展入場券をご呈示いただいた場合も、団体料金でご入場いただけます。
[他の割引との併用不可、ご本人様のみ1回限り有効]

広報に関するお問い合わせ

NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]
広報担当：高橋良彰 | 企画担当：四方幸子
TEL: 03-5353-0800 / FAX: 03-5353-0900 | E-mail: query@ntticc.or.jp
URL: <http://www.ntticc.or.jp/>

NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]は、
日本の電話事業100周年[1990年]の記念事業として
1997年4月19日、東京/西新宿/東京オペラシティタワーにオープンした文化施設です。
ICCは「コミュニケーション」というテーマを軸に科学技術と芸術文化の対話を促進し、
豊かな未来社会を構想していきます。

